

## 博士学位論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第 19 号
------	---	--------

氏 名  
名倉 ミサ子

論文題目  
真珠庵本『百鬼夜行絵巻』研究—仏教を纏う妖怪

### 論文審査担当者

主 査	愛知県立大学	上川 通夫
	愛知県立大学	中根 千絵
	名古屋大学	近本 謙介

## 1. 学位論文の内容の要旨

標題の真珠庵とは、大徳寺（京都市）に含まれる子院であり、15世紀後期に一休宗純によって建てられた禅宗寺院である。『百鬼夜行絵巻』は、妖怪を登場させて特定の思想を表現する絵巻物で、紙本着色、全長 747.1cm、伝土佐光信筆（実作者は不明）、15,16世紀成立、詞書きを一切記さない絵画表現のみの作品である。中世写本としては唯一のもので、祖本の存在は不明である一方、近世写本は数多い。この論文では、真珠庵本がオリジナルに近いものと想定している。

この論文は、『百鬼夜行絵巻』の絵画表現をめぐって、仏書、説話、伝承、儀式書、絵巻物などを引証しつつ、部分と全体についての徹底分析により、制作意図、立場性、主張などの基礎的事項の解明を目指した、文学研究である。各章は、奇怪な姿態で表現される数多くの妖怪について、意図された表現内容の解明に当てられており、仏教思想に照らした破戒の実態を示す具体事例としての新知見が多い。それら基礎的考察を踏まえつつ、本作品について次のように評価され、結論づけられた。すなわち真珠庵本『百鬼夜行絵巻』は、15,16世紀の仏家、特に一休宗純の思想に近い禅家の立場から、破戒を常態とする仏教諸宗への批判を、仏教思想の言説としてではなく、百鬼、妖怪の姿態として造形化した諧謔的風刺の作品である。

全体の構成と概要は以下の通り。\*は査読なし既発表論文、\*\*は査読あり既発表論文、それ以外は新稿である。

### 序 真珠庵本『百鬼夜行絵巻』

真珠庵本の概要と研究の状況を述べ、基礎的事項からの内容解明が課題であるとしつつ、主題として特定の仏教思想がある可能性を指摘する。

### I 『百鬼夜行絵巻』に描かれた仏教界

#### 第一章 『百鬼夜行絵巻』の行列と舞樂法会 \*\*

真珠庵本の妖怪行列の画像分析から、その構成が舞樂法会の四箇法要に倣って構成されていることを指摘する。

#### 第二章 妖怪の信仰—『百鬼夜行絵巻』の道具と宗派

妖怪が携えている道具を分析し、仏教宗派が描き分けられているとともに、宗派間の対立・競合の状況が描き込まれていることを指摘する。

### 第三章 破戒の経典と妖怪をめぐって—『百鬼夜行絵巻』の方法

行列中央に描かれた几帳と唐櫃について、『法苑珠林』の破戒に関する記述が絵画化されていることを指摘する。

## II 『百鬼夜行絵巻』にみる僧の世界

### 第四章 『百鬼夜行絵巻』に描かれた妖怪と仏教 \*

行列中央には描かれている唐櫃と赤い妖怪について、構図・色・形の分析によって僧侶の破戒、また特に女犯が示されているとみる。また、詞書きがない絵巻が作成された意図について、禅宗の「不立文字」という思想に基づいていると推測する。

### 第五章 釜と鍋—『百鬼夜行絵巻』に見る神事の位相 \*\*

台所道具の妖怪について、湯立神事や筑摩祭りが参考にされるとともに、修験者の存在も意識されており、神事と仏教の混在や愛欲などが示されているとする。

### 第六章 『百鬼夜行絵巻』と『天狗草紙』の関連性—妖怪退散をめぐって\*

巻末に描かれる火の玉について、従前説を否定し、天狗が恐れる不動の炎とも捉えられるとともに、地獄へと反転する火車の意味であることを指摘した。

### 第七章 説話から読む『百鬼夜行絵巻』—小町と和泉式部

絵巻の中心部分に、小野小町と和泉式部についての説話が下敷きにあると指摘し、仏教思想の愛欲などの破戒を表現していることを見いだす。

### 第八章 百鬼夜行絵巻跋文における儒学的受容—歴博本と岩瀬文庫本の場合\*

近世の2写本について跋文などを分析し、百鬼夜行の儒学的享受が指摘される。

## 2. 学位論文の審査の要旨

### 【審査内容】

文字情報を一切含まない真珠庵本『百鬼夜行絵巻』について綿密な分析を加え、先行研究での誤認と欠落を克服し、仏教との関わりから多々の事実を見出したことをもってして、本論文の価値は高く評価される。奇抜な絵巻物として有名な作品に、はじめて本格的・全般的な考察を加え、学術研究の素材としての価値を据えたことで、学界への貢献度は高い。また、文学研究に軸足を置きつつ歴史学研究の手法にも目配りした分析は、領域横断的な学術発展の可能性を秘めている。

個別の分析について、蓋然性の高い指摘が多い。たとえば妖怪の行列に仏教儀礼（四箇法要）の含意を読み取り、鍋妖怪を筑摩祭との関わりで解釈し、末尾の火の玉を地獄の火車と同定する点などである。ただし、複数の前提を残した上での仮説にとどまる部分や、パロディー絵画表現を通常の儀礼・説話などと結びつける際に他の可能性を排除し切れていない不安定さは残る。実証課題が浮かび上がった点については、考察の継続が望まれる。その場合、『法苑珠林』「破戒篇」の影響を始めとして、典拠とされる資料の位相差への留意や、当該期の禅宗における仏書とくに戒律観の実際を示す文献など、まだ目配りされていない方面にも挑んでほしい。

また、『天狗草紙』と『百鬼夜行絵巻』の対比は有効だが、歴史的文脈の違いを十分に考慮しなければ、それぞれの作品が生み出された理由が説明しきれない。『百鬼夜行絵巻』が「不立文字」を旨とする禅家の一休周辺で作成されたというやや勇み足的な指摘も、時代状況の歴史的把握がなお充分ではない恨みと関係するように思われる。

個別には積み重ねるべき実証課題があるが、研究の継続によって解決されることが見込まれる。このほか、連歌（たとえば『連珠合璧集』）や能の詞章への目配り、仏書の扱いや仏教史研究についての留意など、本論を発展的に完成させる方法が浮かび上がり、あらたな観点からの研究展開が期待される。

審査担当者は、本論文によって『百鬼夜行絵巻』の作品理解が深まったということにとどまらず、説話や物語・伝承を介在させた室町の知の基盤を考える手がかりが広く学界に共有されることになった、という理解で一致した。

### 3. 最終試験結果の要旨および担当者

報告番号	※第 19 号	氏名	名倉 ミサ子
試験担当者	主査 愛知県立大学 愛知県立大学 名古屋大学	上川 通夫 中根 千絵 近本 謙介	
(試験結果の要旨)			
<p>8月31日(月)13時から15時に、公開審査会を実施した。</p> <p>3人の試験担当者から出された質問や批判に対して、申請者から逐一の回答が述べられた。論文の完成度を一層高めるための課題が4人に共有された。</p> <p>公開審査会後の審査担当者による会議で、最終試験について合格と判断した。博士(日本文化)の授与を可とする。</p>			